足利結十一編上

仙果作　國貞画

柳亭先生は曾而予同郷の友にして齢まる等なれば惜哉世を早くして遺憾少からず。爰に門人仙果子師が遺忘を嗣ぐ。稗史小説を著述し。能中足利手染紫の一時の戯作にして能先師の趣を得て年々案々深出して。脱染調灰汁の篇を重ね其文色新艶なる後美しく拙言を書送りて。同僚の所縁の色里大坂南坡新地なる齢七十一の野叟

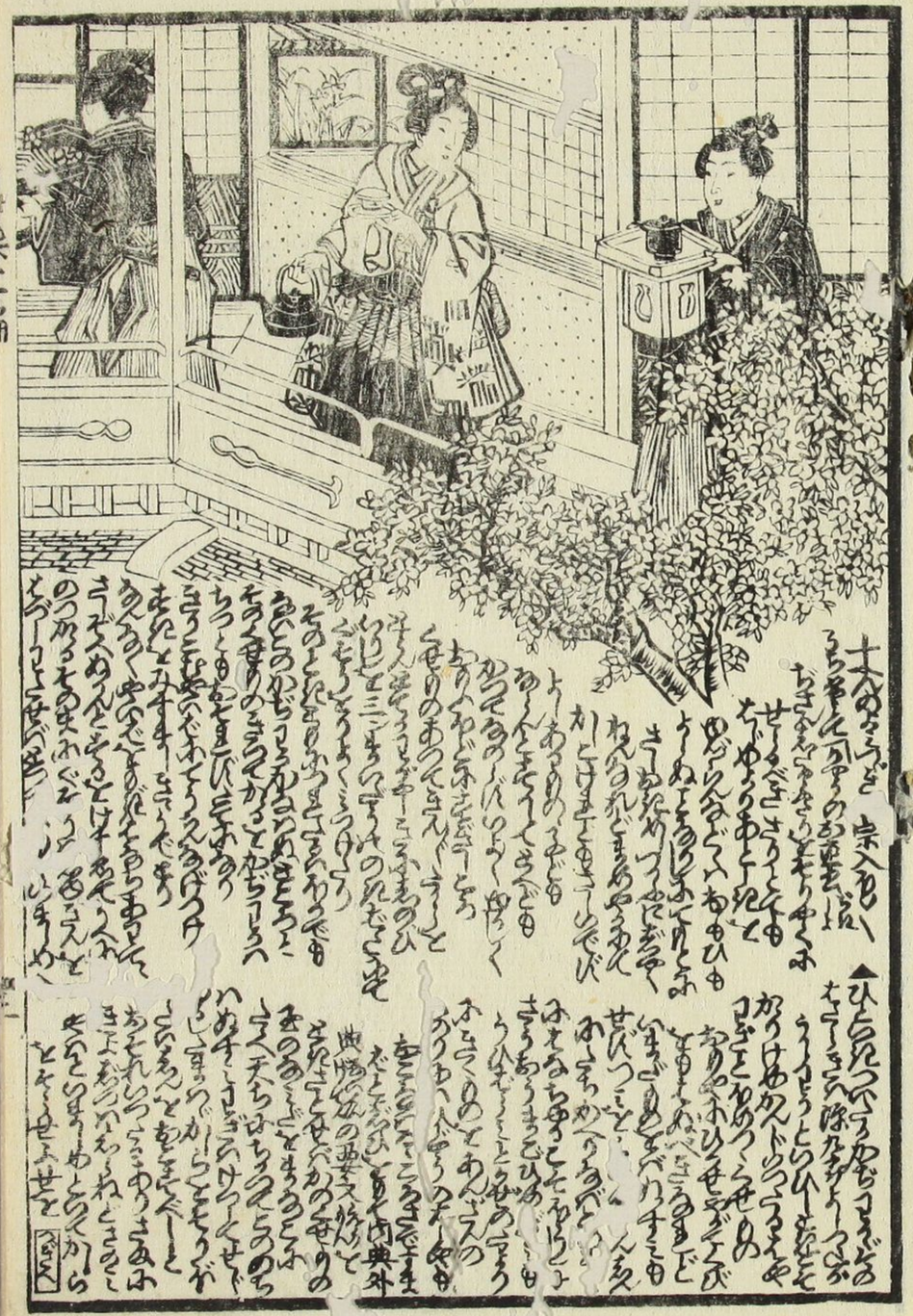
楠里亭其樂

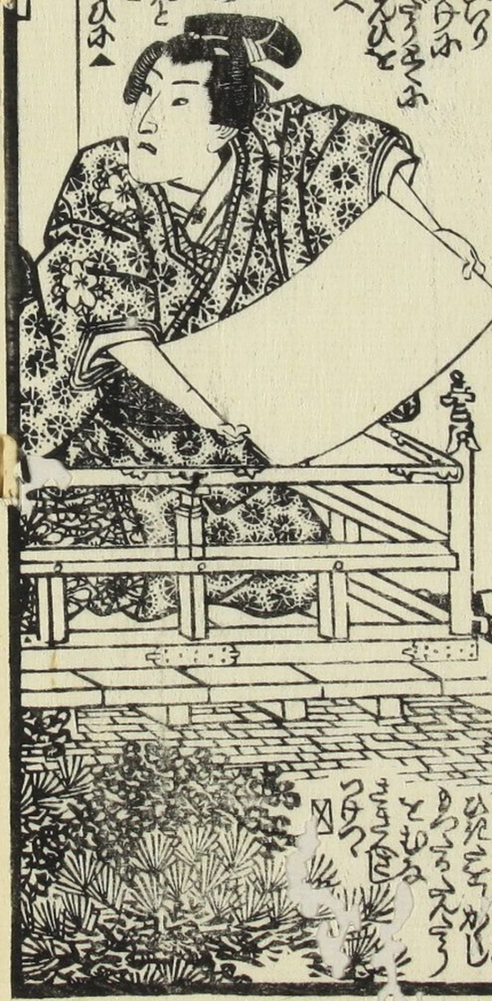
曲江図画
室町十代將軍
足利
手鞠
御會の
図

十編十一編ハ山名宗入年來の大願成就し梶若に家督を振ひ奥の郡に深山に世を遁るゝ條あり丁度其時に當て事異なれど人年も慥に經べき亀戸の親玉六十七十の若盛を人まゝに老たりといひなし繪草紙ハ大議なりけれ辞まして當座にハ誰も顔色青ざめしが藍より出て藍よりもまつと濃なる國貞兄熟く受とる家傳の愛形況親御が外題と口画たゞめば譬の鬼に鉄棒錫杖振上浦舟を追ふ様な料簡なるねば筑と頼む所に早く離まし吾等のうら山しさ盲蛇にて前後とずに作度耻をかき覗きつらぬ事ハ耳遠き雅言の好と叱られし紙屋治兵衛の肬笠雨も袂をぬらに昔とあり思へば久しきでも作者にて老の數そふ恥しさ師匠のあとの續貂もいつに上下で長いとて若菜くといつまでもいうても居られしいつにせんとうめけば軒の柏木の枯葉ぞかゝく笑ひたる

壬子新刊

笠亭仙果





細
平

浮
細糸

八

競
入

賢
綱
浮

新刻校正
御江戸昌平町鑑
宋字細註横本
半紙摺薄用摺
全二冊出版

嘉永五年新彫

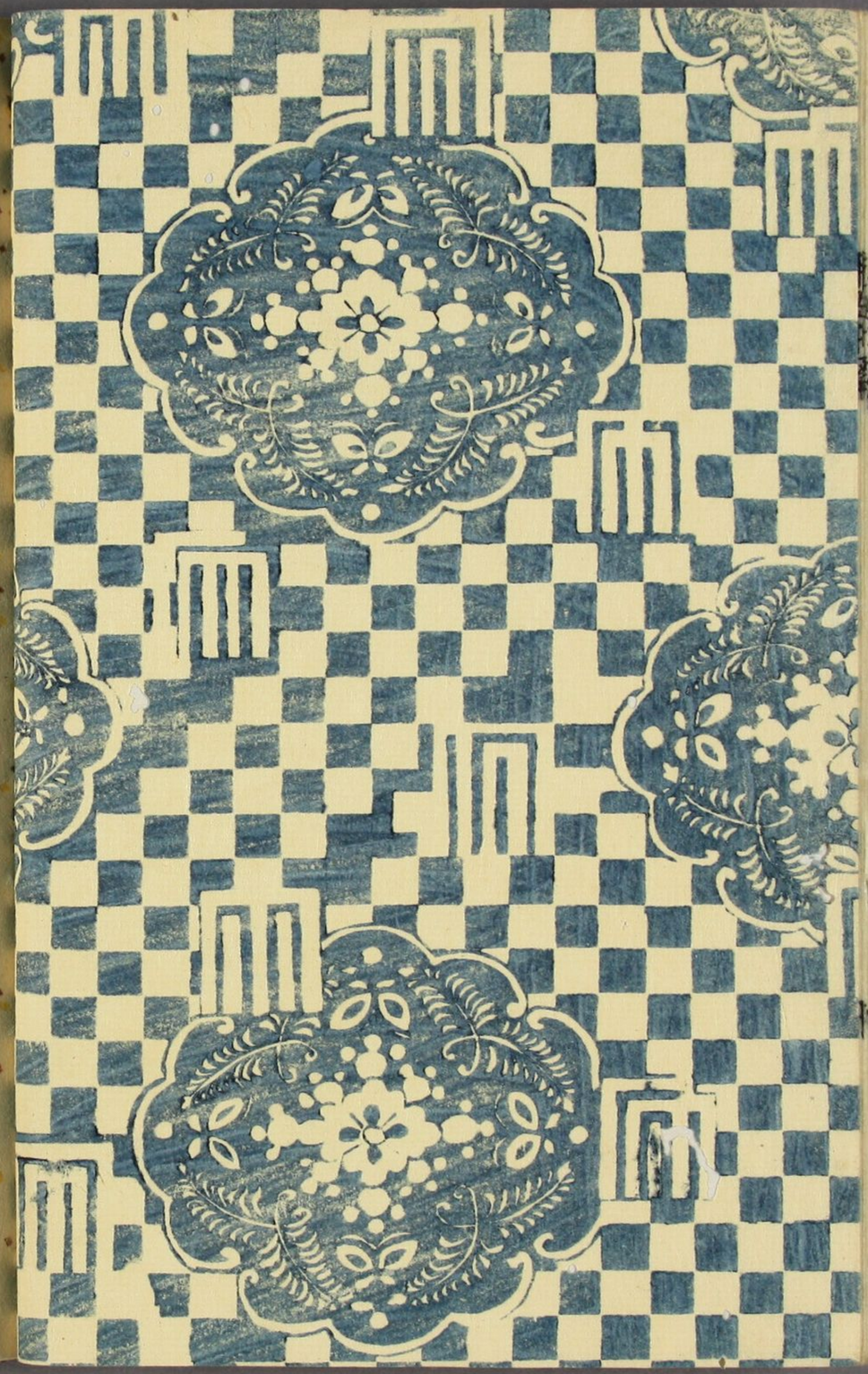
教訓浮世めが祢
全三冊
万亭應賀作
溪齋英泉画

兩筋戀の山道
全二冊
万亭應賀作
一勇齋國芳画

亀鑑浦嶋草紙
初編
笠亭仙果校合
柳齋琴繁作
錦朝楼芳虎画

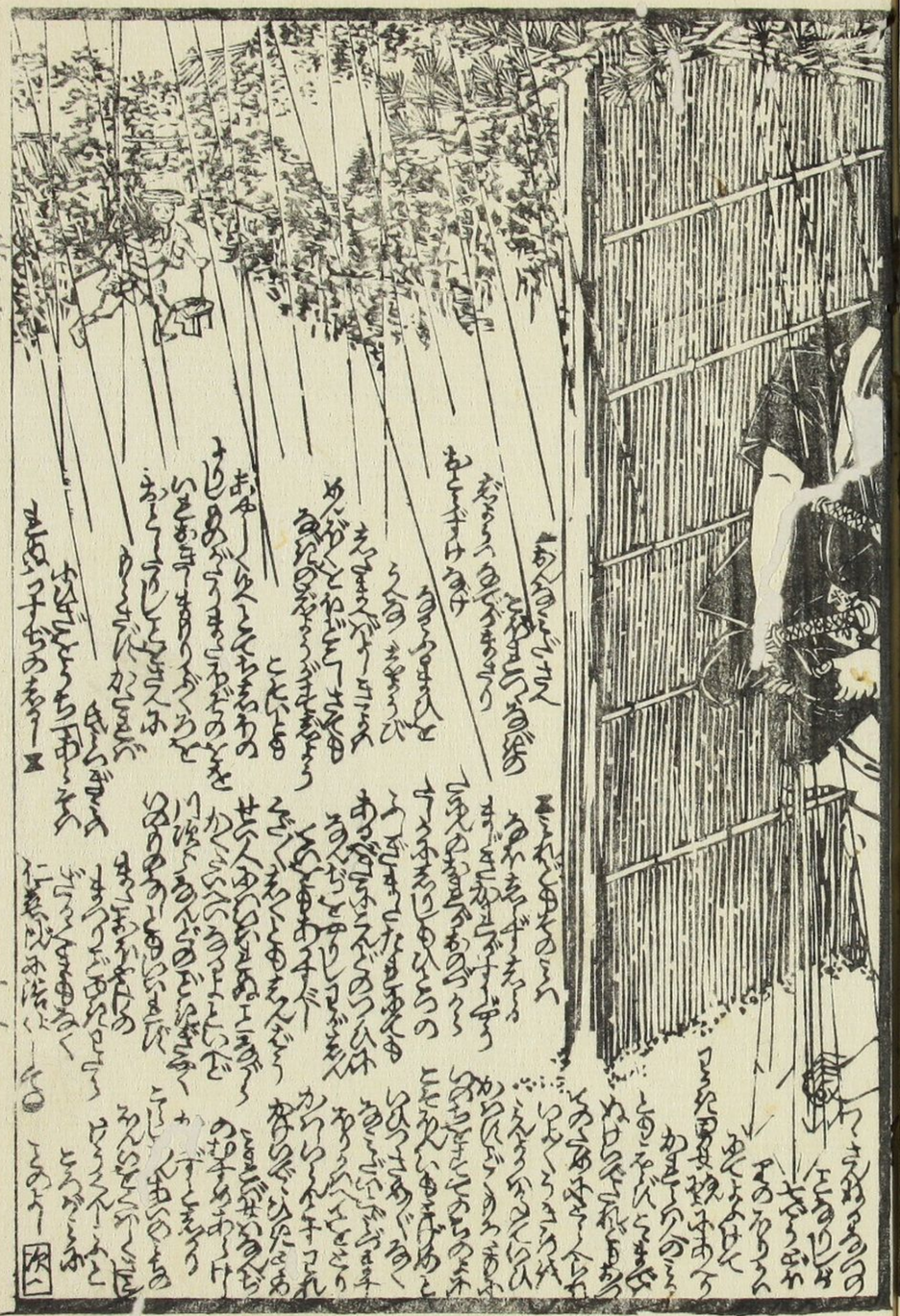
刊行書肆
東都
錦林堂

十二番下母



仙果伝
國貞画
子美彩刊
あしう
絹
手染の
紫
十一編
結下
太田屋
壽梓

江
糸

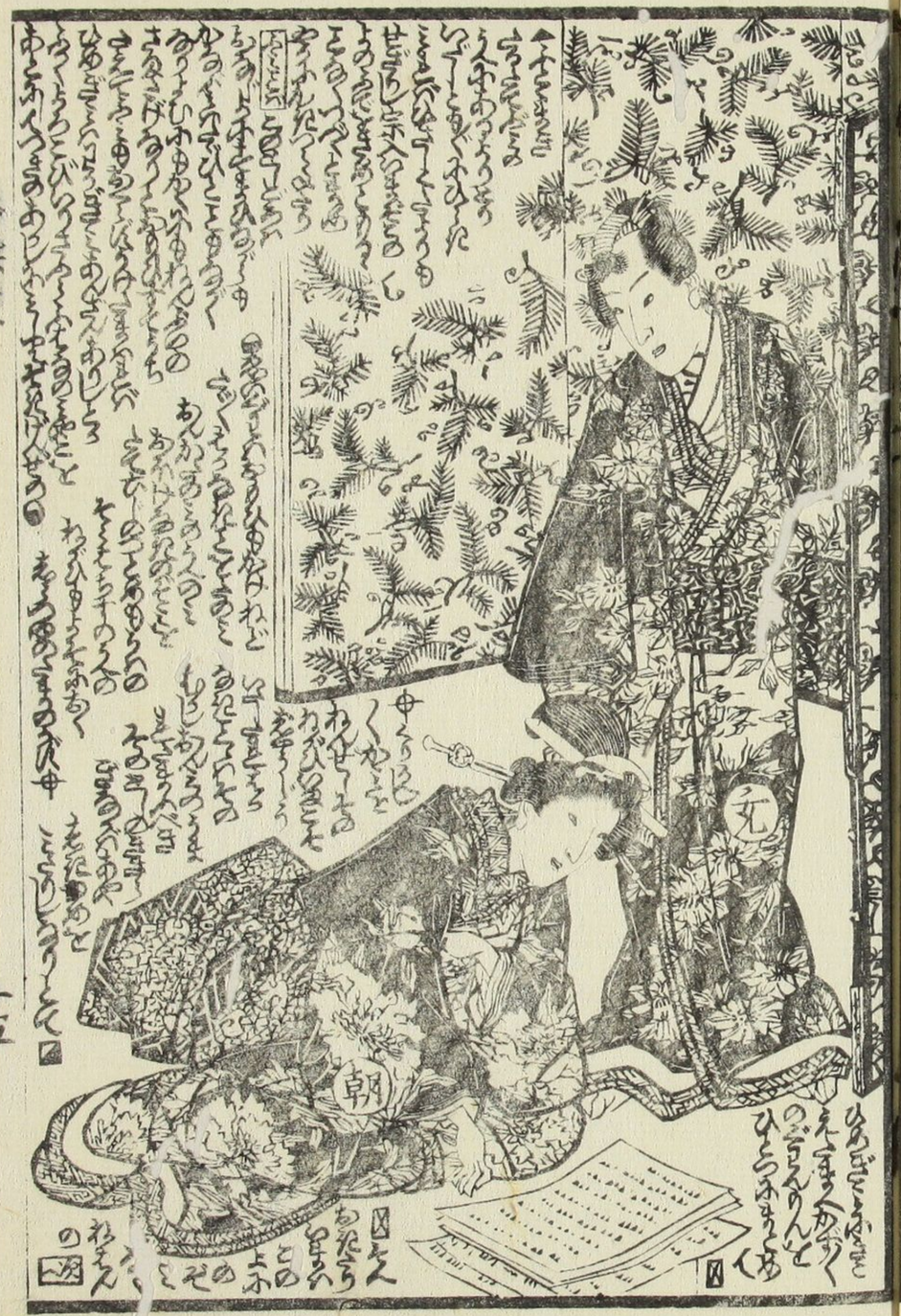


江

此本

朝良

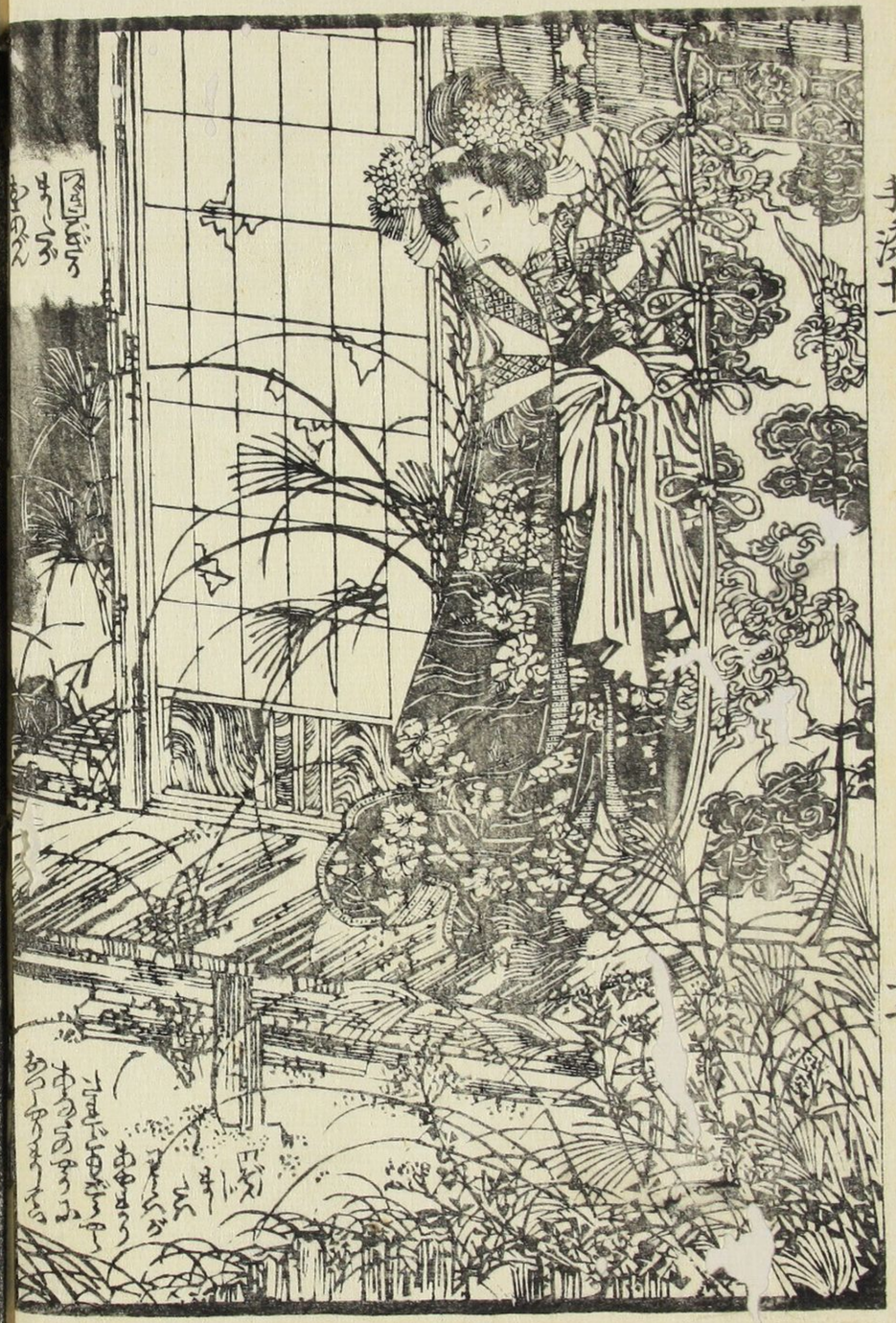
明


夕
朝

赤松うのはなまつろくるま

拍

柏



三

拍
越

嘉永五年壬子新刊

足利絹手染紫

笠亭仙果作
一陽齋豊國画

◎十編より十四編まで 當子春發兌若菜の上第十二編にて
全くをわり十三編より同下いよ〳〵こゝろあひ姫柏之助忘蓍の
こんこん人情の極意をかきあらはせしの事入江覧は右くさ草紙大当江礼の為

極彩色 てのしかぎぬ染上り大雙六

袋入 一枚摺

これもむかしさんにゆかりの芳藤画にて調進仕は法評判なるく
やあくしかりしかれども事希よく

山東奇談 婀娜櫻

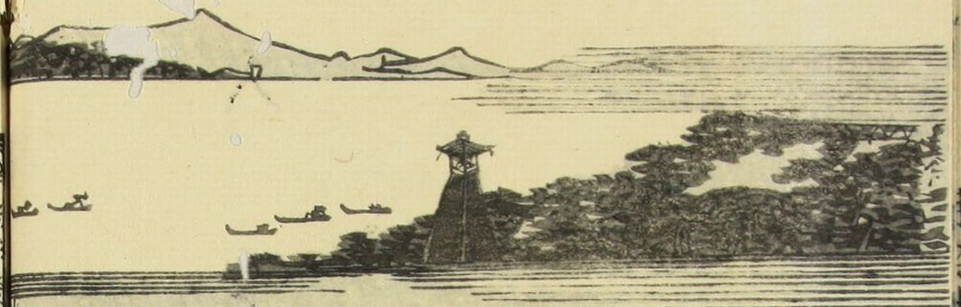
種吉作
芳席画

右初ハ四郎兵衛延引仕は尚来
おそくも美出し申は

東都神田鍛冶町二丁目
太田屋佐吉謹白

國政改二世
國貞画

仙果作



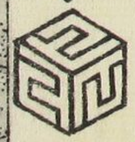
足利絹
手染箋
十二編
上冊
仙果作
國貞画 鈴林堂
梓

幾度もいふ事なれど無事な程面白からぬはなければ舊めいたりとまるくも山名の餘黨の洗濯話に怪談を調合しけるが其灰汁が過足利結地合以ゆるく荒たるはゆるまりきるのといふ人もあれば此編には少ぞろり立廻りの画のミにて。いちぬ色なる山振の花も散實もなかれど有べきかゝ我本文のまゝ。俗話に譯してあらべくや。それ容易きやうにしてく難きこれ龜甲ぢゞんぶを踏のミなるんかいかれはべきと問といへど板元もさしいふへなけまゝ強ゝ。

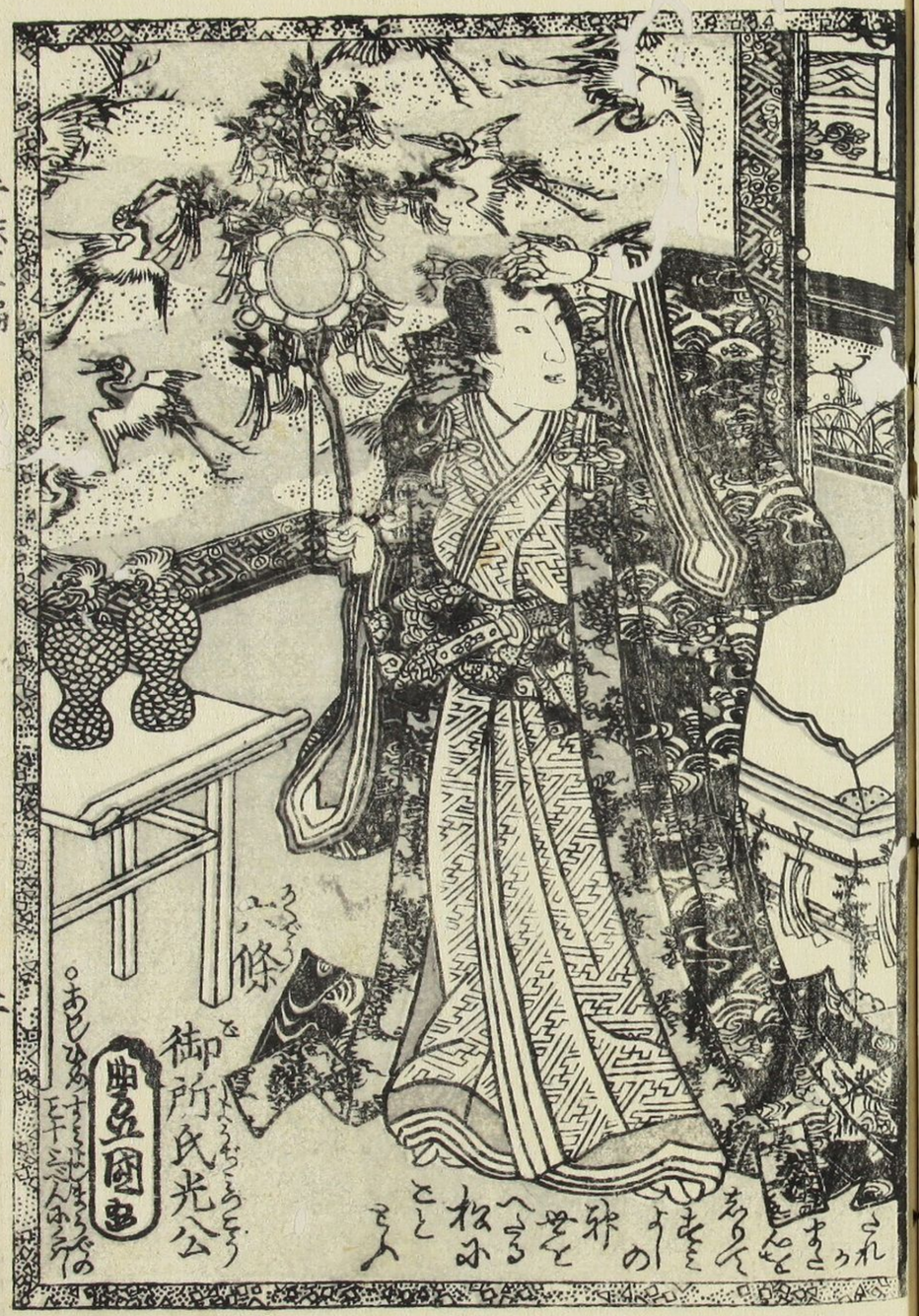
きてゆべきるのにはゆらぬどよい項に例のかくいかつたりの。小侍従が返哥ならで及ばぬ技に心を懸今更上も下しもなかれど七顛八倒若菜の上一帖訖ぶ我御祝小袖の梅に鶯櫻に手鞠不手際な邊土染も歌川の画法筆の綾錦摺に紛らしてく彼相替らず御覧のほど。よひ祈がむ。

嘉永六年癸丑新刊

笠亭仙果

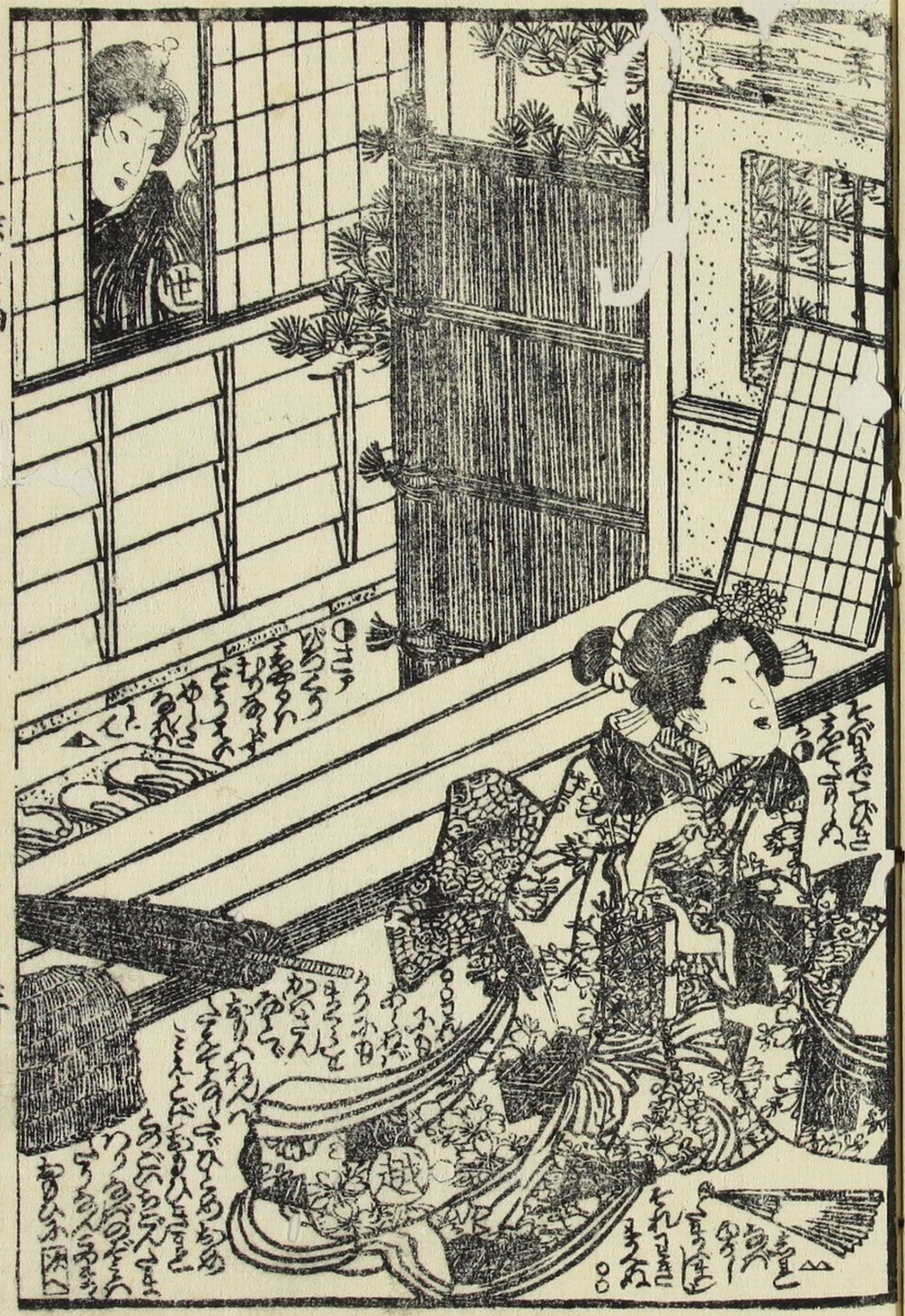


将軍源義澄公
北方明石姫



六條御所氏光公
豊國画

柏

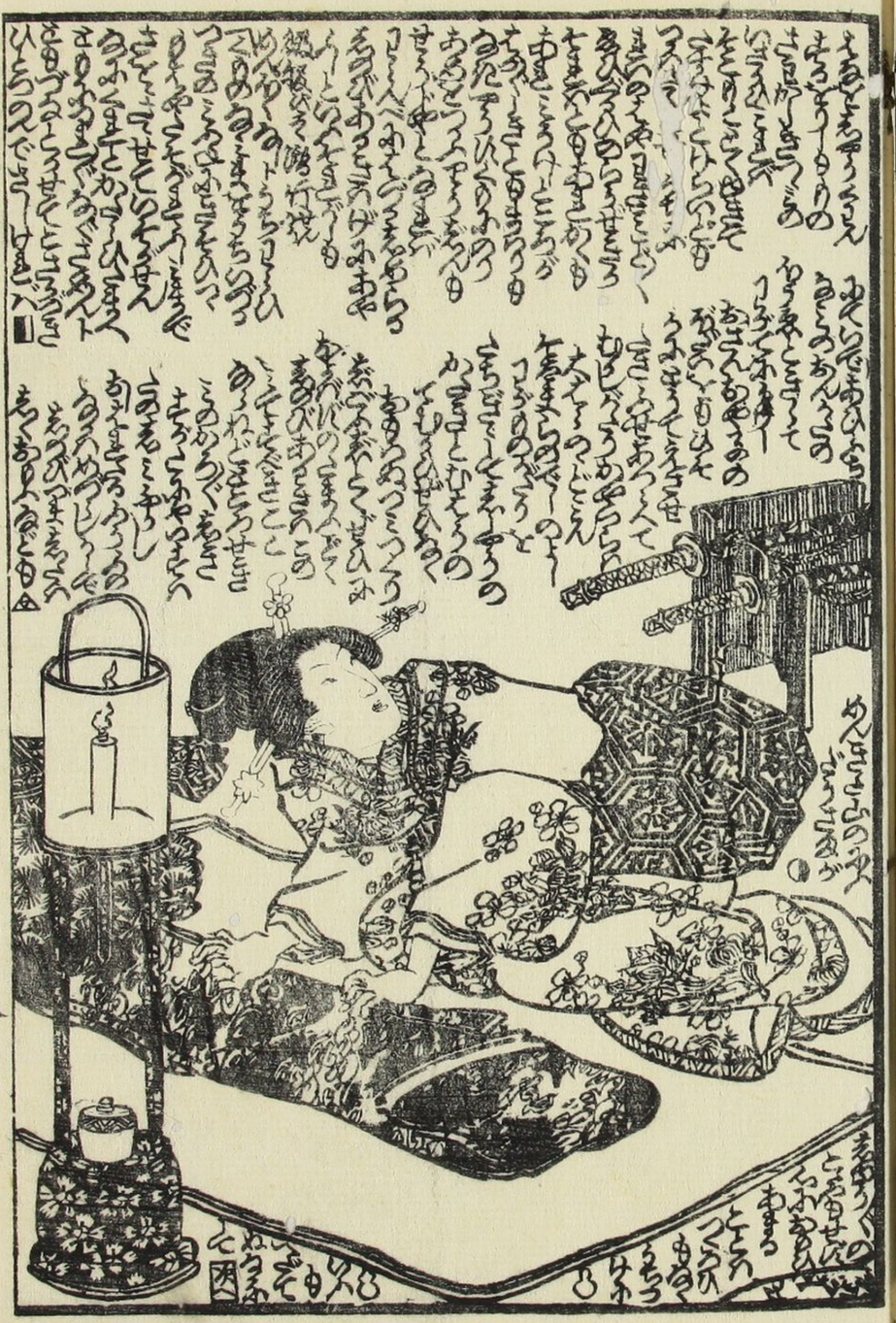

世
越

正宗
酒樽

獅
柏

柏
獅

井



充

絹
袖

曲鞘

新刻校合 御江戸昌平町鑑
朱字細注横本
半紙摺薄用摺
毎月お改正は特又お遠
住ゆゑ江中越ゆゑ下は
逆服並しつゆは
全一冊

校正 三座猿若狂見圖
彩色一枚摺
是亦毎月お改賣出しなり

兩筋戀山道
全二冊
應賀作 國芳画

嘉永六丑年新彫
龜鑑浦島草紙
初編 笠亭仙果校合
二編 柳齋琴繁作
錦朝樓芳虎画

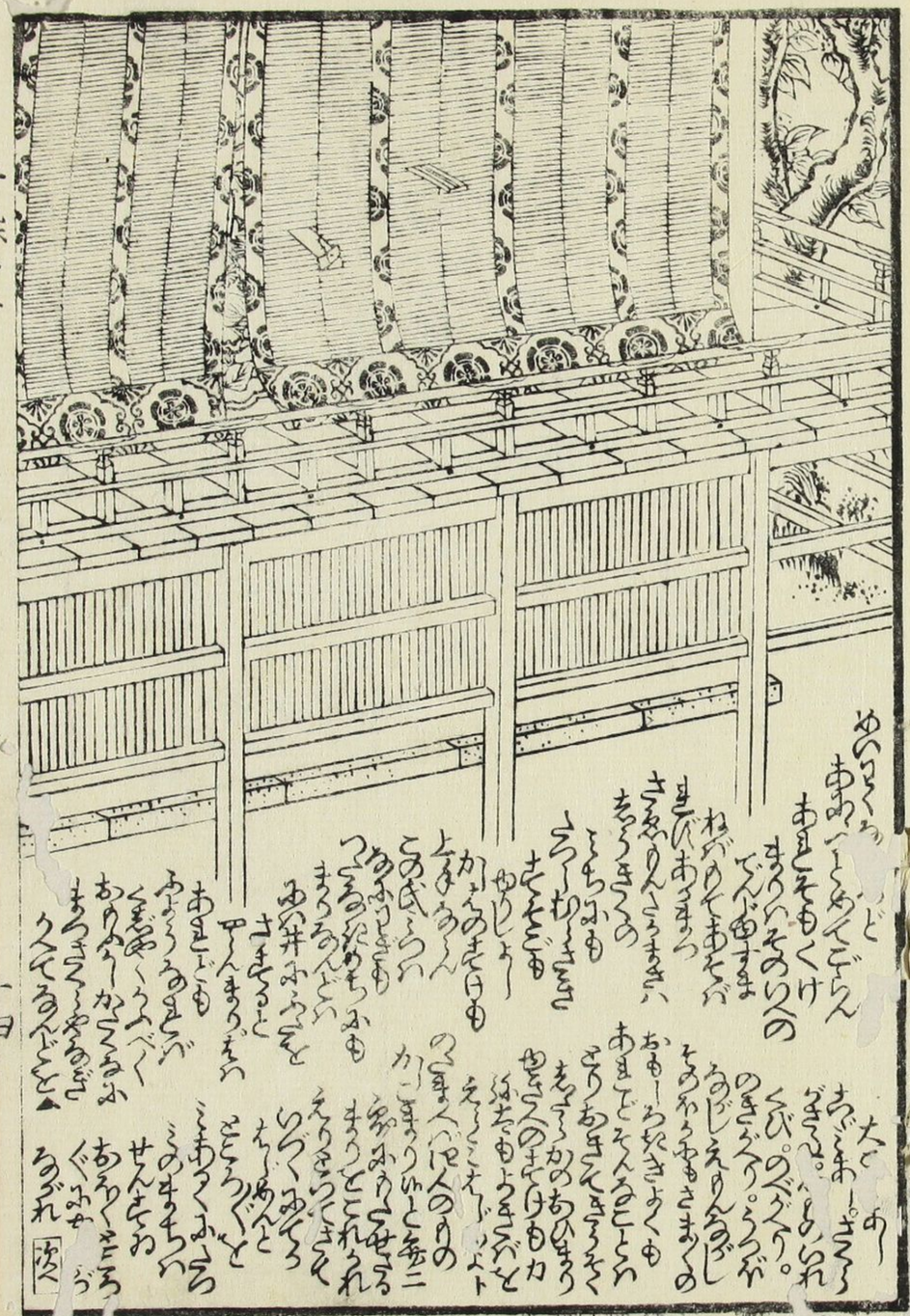
東山奇談 婀娜櫻
種吉作
芳玉画

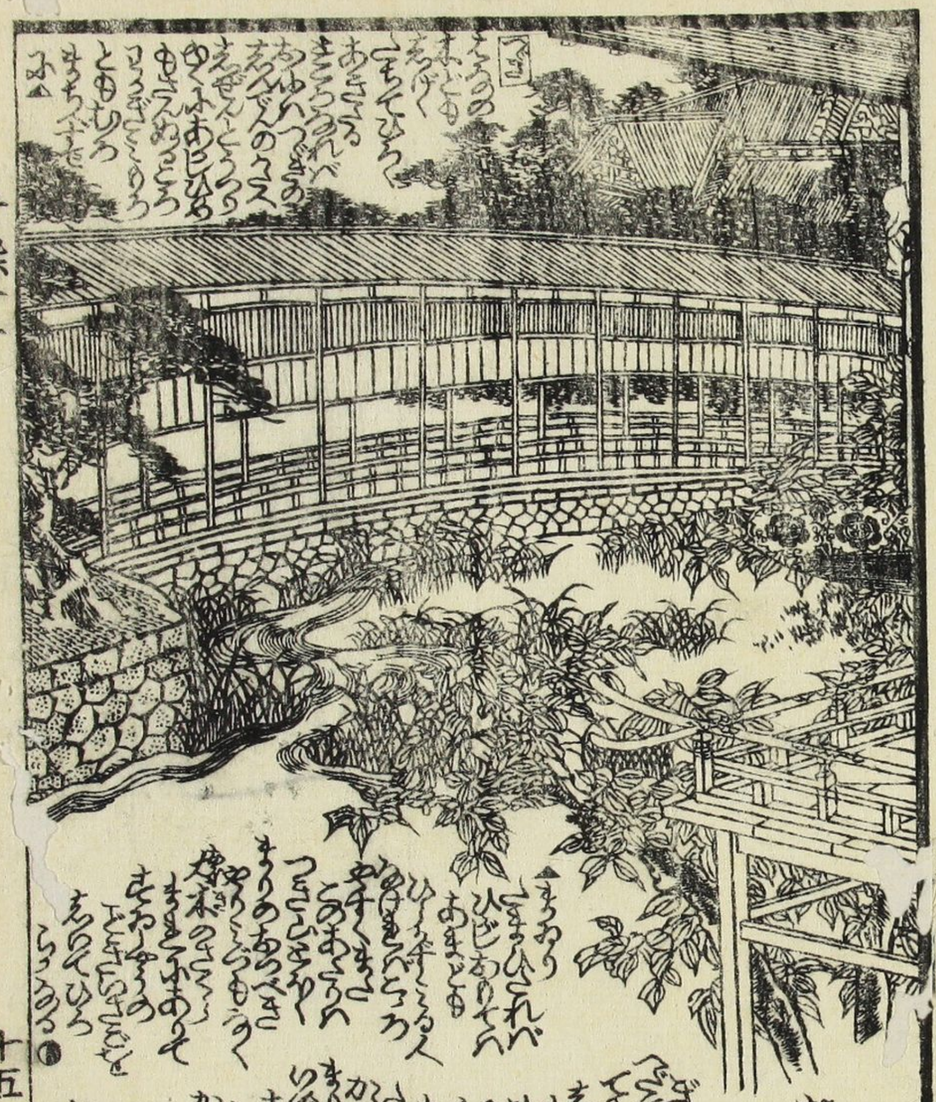
いのしゝ
深とう大双六
極彩色 上仕立
芳藤画

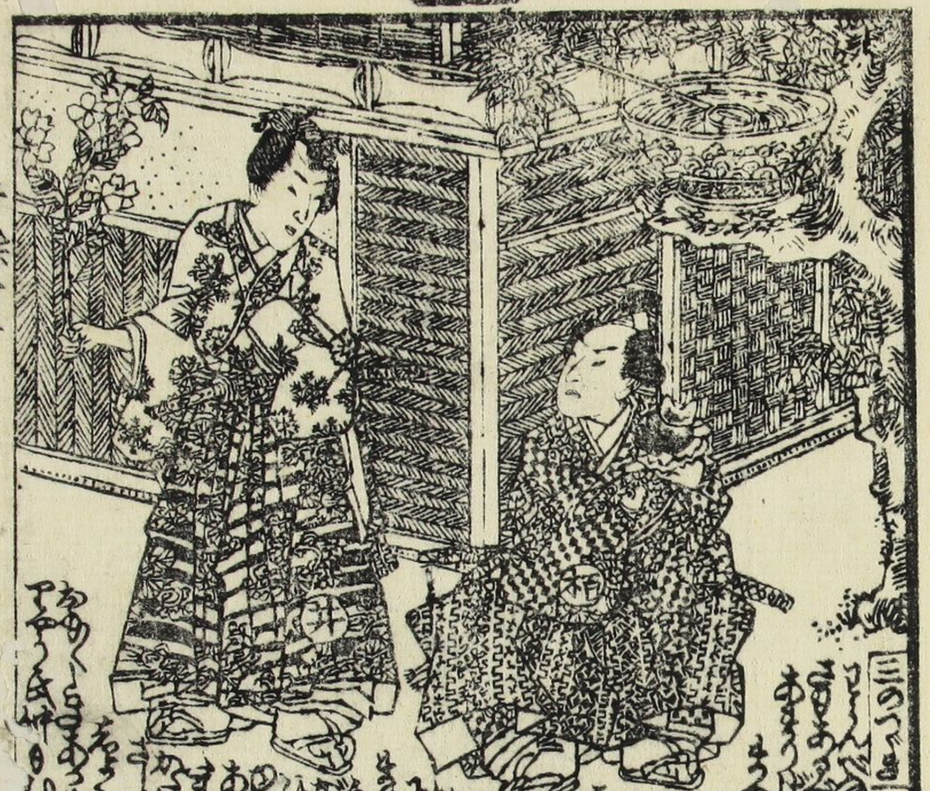
刊行書肆 東都神田鍛治町 太田屋佐吉

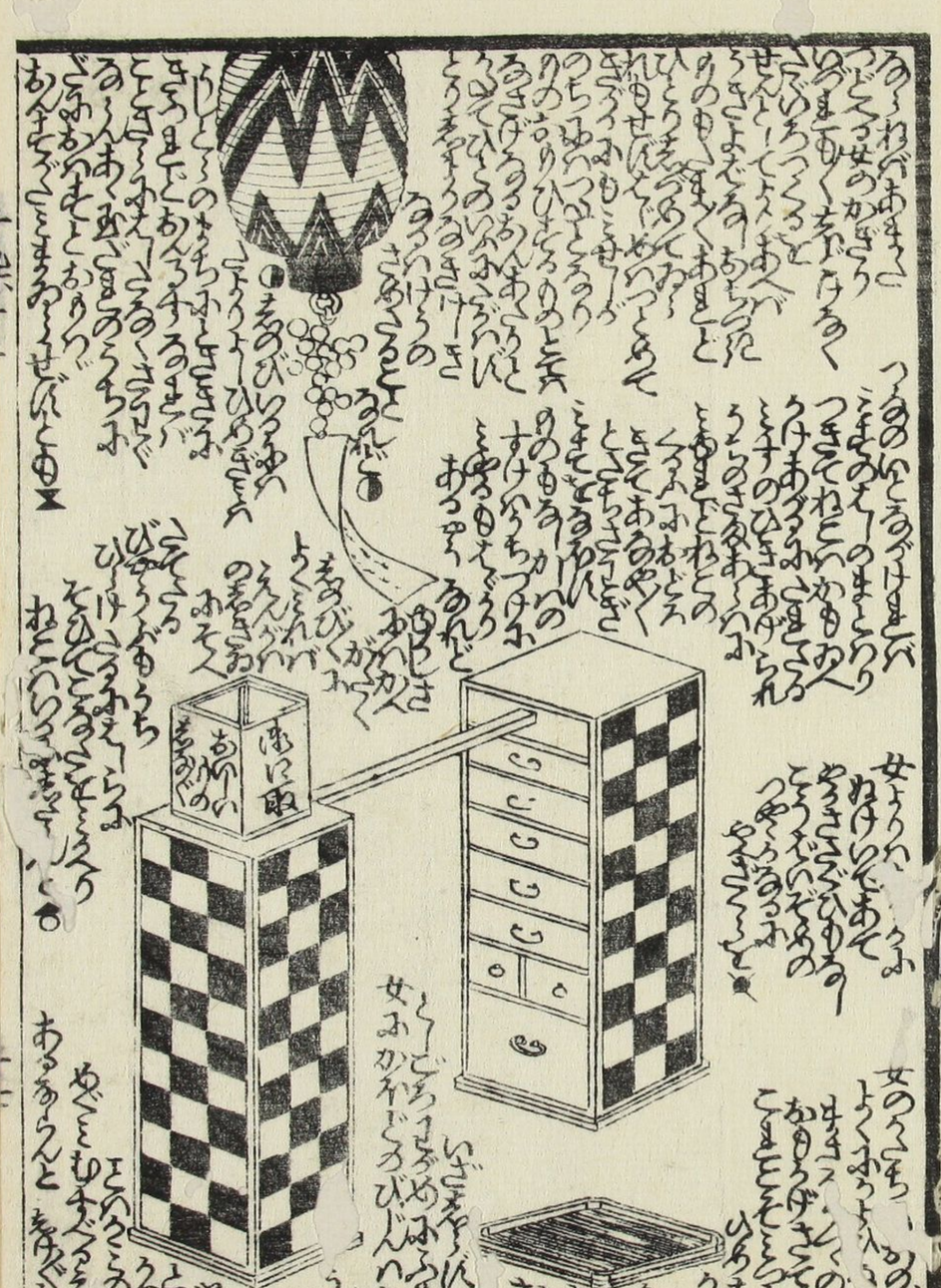
三

桔









足利絹手染紫

自十二編
至十六編

仙果作
國貞画

右草紙ふ本ハ流行ニ付世上ニ似ル者の不数多ニ有ニ足利絹ハ
あかるぬとハひゆき最下深山ハ用ニ紙付重ニ有かくて年ゐ〻紙夫ハ
中ゆき其由縁郡傍とゆハ草紙ハ是と同根ニ種を用ゆ人名様も大宮
同根者相互ニ立張侍是が実のゆり是が本紫と云勝手をゆも商賣
敵手元ハ世意ニ至り他を織り自分を為振り仁程律流成ニ礼を立ゆ事も
本文西ニ加ニ沢ハ云ハ世秀具師の言立とひとしく定ゆ事なくそれも
ふれも正来ハ筑紙ハ御詞意様ニ務務を正当評ニ程とゆゆ仮者ニ
おいても大悦とゆ　此ハ当ハ礼寄此中ニ成年十上ハ以上

癸丑新春

神田　錦林堂　武井菜敬白